

C-7 家族生活型と間取りのプリンシプルについて

—住生活、住宅の型展開（その4）—

大阪市大家政 ○北浦かほる
前原 匡子
上林 博雄

1. 前研究の概要：住居学を体系づけるうえで、そこで用いられている専門用語の概念を規定し、住生活と住宅の型展開を行なった。前研究(1)ではそのうち住居観と住意識、家族生活との対応について分析、研究を試みた。本小論においては、家族生活型とそれに連なる間取りのプリンシプルについての位置づけと型展開を試みたい。

2. 住生活系と住宅デザイン系：住生活系の研究が、住生活と住宅の対応により生ずる住様式、住要求、住意見を対象とし、その分析のために、住居観、社会階層に遡って研究されるのに対し、住宅デザイン系は実際にデザインし、形に表現するために、設計者のつかんでいなければならないデザイン以前の問題も含めて、(個性→人生観→生活観→)住居観→家族生活→間取原則→平面構成→住宅、の系列を指す。

3. 間取りのプリンシプルの展開：平面計画上で、設計計画の中心となる考え方により、間取りのプリンシプルの型展開を行なうことができる。これは家族生活型と同系列にあり、その典型的な型とは対応する。近代住宅においては、間取りのプリンシプルと共に、平面計画を規制する間取りのドクトリンがあり、それをも満足する必要がある。

4. 家族生活型と間取りのプリンシプルの対応：多くの家族生活型の中から選ばれた典型的な家族生活型の例と間取りのプリンシプルは対応して展開している。